

## 江戸時代の旅における知恵と秘訣

りょこうようじんしゅう  
旅行用心集 (草津市蔵)



秋が訪れ、各地で行楽に出かける機会が多い季節となりました。現代はインターネットが発達し、どこに旅するにも便利な時代となっています。では、情報や交通機関が発達していない江戸時代後期の旅ブーム、人々はどのようにして情報収集していたのでしょうか。今回は、旅の知恵本『旅行用心集』をご紹介します。

『旅行用心集』は、八隅蘆庵(やすみろあん)が文化7年(1810)、当時の旅において気を付けることを書き記した書物です。その内容は、旅における注意事項だけでなく、292か所におよぶ諸国の温泉の紹介や、西国、秩父、坂東の観音霊場について紹介しています。

その中で草津は、「急がば回れ」の語源でもある矢橋の渡しについて詠んだ和歌に触れ、近道であるからと安易に船を使うことには注意が必要であると紹介されるなど内容は多岐におよびます。

また、“道中用心六十一ヶ条”では、「道中で日食にあった時は、休みをとって、日食が済んでから歩くこと。月食も同じ」とあります。現代では日食・月食は科学的に説明できる天文現象ですが、当時の人々からは不吉なものだと考えられていたためでしょう。このほかにも、現代人の目線からは本当かな？というものがいくつも書かれています。

(令和7年10月・草津宿街道交流館 八田 将史)